

「令和7年度 スマート林業技術活用推進事業」 の事業概要

協会が林野庁の補助を受けて実施する「令和7年度 スマート林業技術活用推進事業」については、5月に公募を始め6月の委員会での審査を経て、4コンソーシアムの事業を採択しました。

本事業は、伐採・搬出から造林に至る一連の施業に、最先端のスマート林業機械・機器を組み合わせて活用する新たな作業システムの構築及び新たな作業システムの導入による労働安全性、労働負荷、労働生産性、収益性の改善効果を定量的に評価・発信する取組の支援を行うものです。

また、本事業は、令和7年度の補正予算の事業であり予算を繰越して8年度末まで事業を実施するものです。

【本事業の仕組み】

○助成対象は、都道府県、林業経営体、試験・研究機関を必須とし、その他必要な事業者を任意の構成員とするコンソーシアムとなります。

○支援する取り組みは次のとおりです。

- ・最先端のスマート林業機械・機器を活用する新たな作業システムの実証の実施
- ・実証中のデータ収集・分析、新たな作業システムによる効果の定量的評価及び事業成果の発信

※本事業では、最先端のスマート林業機械・機器として、「林業における労働安全の確保、労働生産性及び労働負荷の相当程度の改善に資する林業機械であって、ICTや自動運転、遠隔操作、林内走行等の新たな技術を備えているもの」としています。

【助成対象コンソーシアム及び事業内容の概要】

4コンソーシアムが実施する助成事業は次のとおりです。

コンソーシアムの名称	北海道・スマート林業 EZO モデル構築協議会
コンソーシアムの構成員	北海道庁、北海道大学、北海道立総合研究機構林業試験場、有限会社サンエイ緑化、ログオーバー株式会社、下川町森林組合、株式会社田邊林業、北海道林業機械化協会ほか
事業内容	ICTハーベスタ、ウィンチアシストシステム（テザーシステム）、GNSS位置情報等のスマート林業技術を活用するとともに、伐採から地拵え、植栽、下刈りまでを一体的に計画する機械化作業プランニングを導入し、北海道の森林条件に適した「伐採・植栽トータル機械化システム」の構築・実証を行う。 事業予定地 十勝地区：幕別町、上川地区：下川町

コンソーシアムの名称	いしかわスマート林業推進協議会
コンソーシアムの構成員	石川県庁、石川県農林総合研究センター林業試験場、石川県森林組合連合会、金沢森林組合
事業の目的・内容	遠隔伐倒機（シン・ラプトルⅡ）と架設が比較的容易で急傾斜地にも適したタワーヤーダ等を組み合わせ、レーザー航測成果を活用した専用ソフトによる架線設計の省力化を図るなど、伐採・搬出から造林に至る一連の施業で一貫した新たな機械化システムの構築・実証を行う。 事業予定地 石川県金沢市東原地内

コンソーシアムの名称	岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム
コンソーシアムの構成員	岐阜県庁、岐阜県立森林文化アカデミー、岐阜県森林研究所、岐阜県森林組合連合会、株式会社丸光イトウほか
事業内容	遠隔伐倒機（シン・ラプトルⅡ）による伐採と自動走行フォワーダでの運材を組み合わせ、伐倒・集材・運材を統合した新たなスマート林業モデルの構築・実証を行う。 事業予定地 郡上市白鳥町阿多岐

コンソーシアムの名称	大分県林内作業システム革新化推進コンソーシアム
コンソーシアムの構成員	大分県庁、鹿児島大学、大分県造林素材生産事業協同組合、久大林産株式会社
事業内容	傾斜の異なる現地を設定し、遠隔伐倒機（シン・ラプトルⅡ）と従来型の造材、集材、運材機械を組み合わせた作業システムの実証を行い、各傾斜、特に急傾斜地における循環型林業の推進に向けた新たな作業システムの構築・実証を行う。 事業予定地 玖珠町大隈